



第 4 章

地 域 別 構 想

1 地域区分の方向性

1-1. 地域別構想を策定する目的

■ 地域別構想とは

地域別構想は、全体構想に示された整備の方針等を受け、地域の特性に応じた都市づくりの基本的な方向を示すものです。

■ 地域別構想を示す重要性

地域別構想を示す重要な点は、以下に示す3つです。

- 地域の個性や魅力を活かした取組を進めることにより、市全体としての活力や価値を向上することが重要です。
- 市民自らが地域の特性や魅力を知り、地域への愛着を深め、都市づくりに対する関心を高めることが重要です。
- それぞれの地域が輝くとともに、地域間の連携を高めるため、適切な役割分担やネットワークの強化を図ることが重要です。

1-2. 地域区分の設定

■ 地域区分の設定

地域区分の設定は、地形等の自然的条件、土地利用の状況、幹線道路等の交通軸、日常生活上の行動の範囲、区域区分などを考慮しながら、各地域像を描き、方針を位置づける上で適切なまとまりのある空間の範囲とします。

このため、本市の地域別構想における地域区分は、鳴門市内における7町（撫養、里浦、鳴門、瀬戸、大津、北灘、大麻町）を基本として、撫養川を境に撫養町を川東と川西に、大麻町を堀江と板東に分けた、9つの地域とします。

■ 地域別構想の基本的な考え方

○ 各地域の課題

各地域では、人口減少・少子高齢化が進行し、地域コミュニティの衰退が懸念されるため、新たなまちづくりエリアの整備方針と整合を図りながら、地域活性化に向けた取組を進めることが必要です。

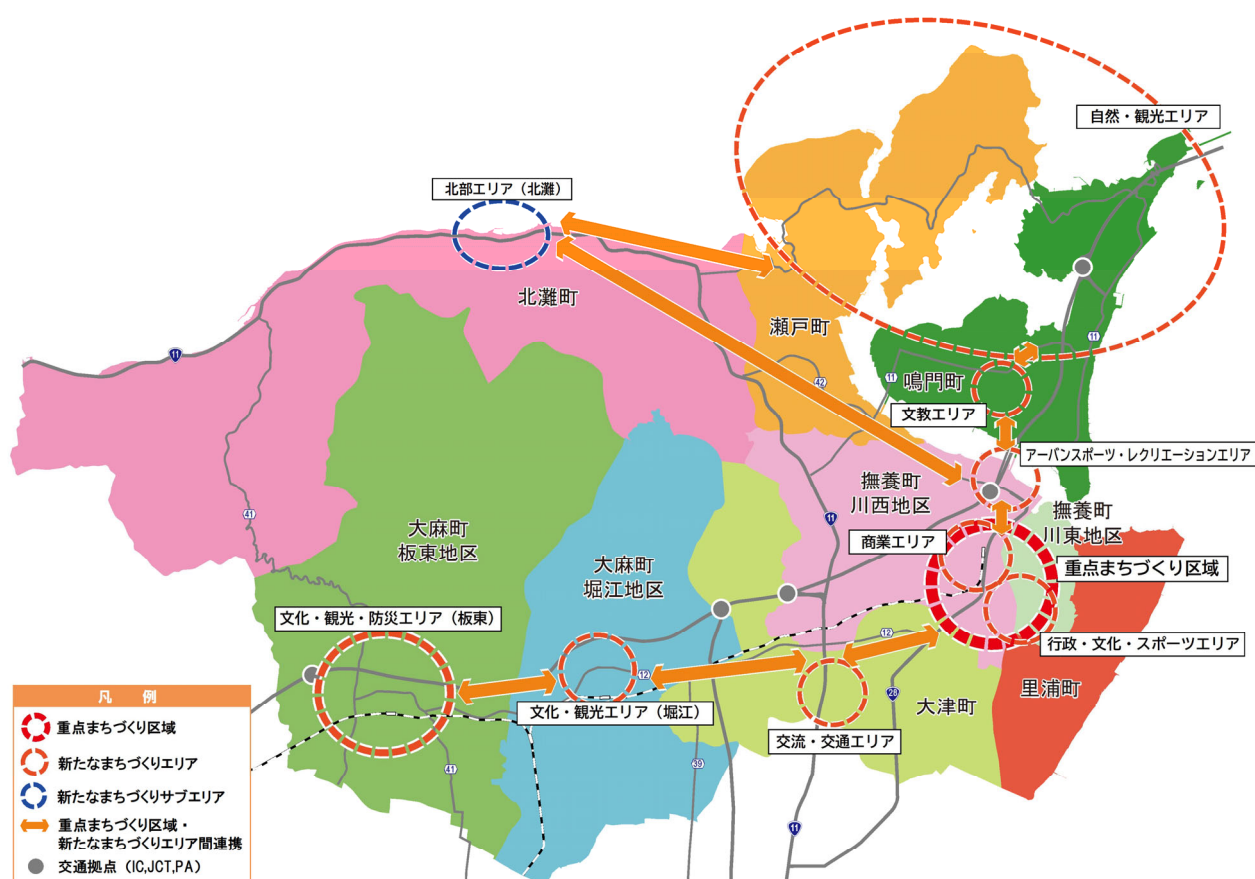
また、コンパクトなまちづくりの推進に向けて、財政状況の悪化を抑制し、効果的・効率的な都市施設の整備が必要です。

○ 地域間連携の推進

地域間連携の推進にあたっては、各地域を地域生活圏として、地域内での生活利便性の確保とコミュニティの維持を目指した取組を推進するとともに、個性ある地域資源を活かした取組を促進します。また、各地域が積極的にまちの活性化に取り組むことによって、住む場所、魅力ある観光地、品質の高い農林水産物の生産地として、隣接する地域と連携することにより、お互いの価値を高める地域間連携を推進します。

撫養町に位置付ける重点まちづくり区域や各地域の新たなまちづくりエリアにおいては、道路整備や公共交通の充実等によるエリア間の連携強化や魅力の創出により、回遊性の向上を促進します。なお、地域内で不足する機能については、市中心部や隣接する地域、さらに隣接市町との連携により補うこととし、地域間のネットワークの形成を図ります。

本市における9つの地域



2 地域別構想

2-1. 撫養町川西地区

■ 現状・課題

【人口】

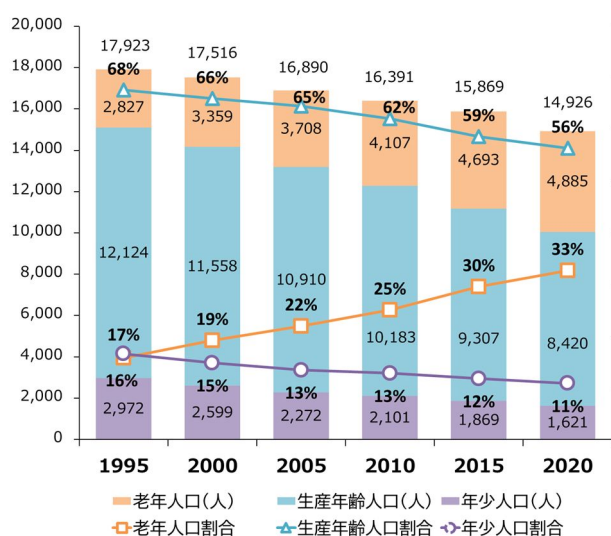
○総人口は、1995 年から 2020 年にかけて約 3,000 人減少しています。

○老年人口割合は、1995 年から 2020 年にかけて約 17%増加しています。

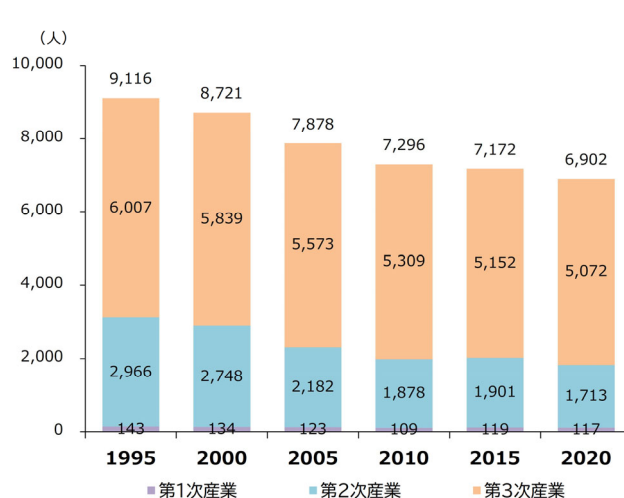
○年少人口割合は、1995 年から 2020 年にかけて約 6%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995 年から 2020 年にかけて約 2,200 人減少しており、近年は横ばいとなっています。

年齢3区分別人口の推移



産業別就業者数人口の推移



資料：総務省 国勢調査

【土地利用】

○市役所をはじめとして行政・文化施設が本地区に集積することから、拠点性や利便性の向上が重要です。

○ボートレース鳴門周辺における賑わいの創出と更なる魅力の向上が重要です。

○大道商店街・本町商店街から JR 鳴門駅周辺地区一帯の商業地における空き地や空き店舗等の増加への対応や賑わいの創出が重要です。

○住宅地は、土地区画整理事業により、都市基盤が整った良好な住宅地が形成されている一方で、街路の維持補修などの整備が重要です。

○古くから市街地が形成されていた撫養街道沿いやその周辺では、狭い道路沿いに高密度な市街地が形成されていることから、居住環境の改善や防災力の向上が重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

- 都市計画道路大津橋日出線・斉田撫養港線・南浜大工野線・南浜撫養駅線・南浜林崎線は整備を進めてきましたが、未整備区間が残されていることから、必要性や実現性に応じた計画的な整備・見直しが重要です。
- うずしおふれあい公園や桑島公園などの都市公園や撫養川などの河川は、市街地の貴重な緑と潤いであり、市民の憩いの場として質の向上と適切な維持管理が重要です。
- 鳴門駅周辺では、公共下水道（污水）の整備を進めていることから、計画的な整備や維持管理に取り組むことが重要です。
- 公共交通の発着点として JR 鳴門駅や高速鳴門バス停留所が立地し、交通利便性が高いエリアである一方で、市内を通過するバス利用者数の減少に伴い、公共交通の維持が困難であることから人口減少・少子高齢化に対応した交通体系の確立や利用促進が重要です。
- 鳴門市阿波踊りの文化をはじめ、木津城跡などの歴史と文化的景観を有しており、貴重な文化財の保全が重要です。

【都市防災】

- 市本庁舎の整備が進められていることから、災害時に対応できるよう防災機能を高めるとともに、フェーズフリーの考え方に基づいた施設の活用が重要です。
- 津波や河川による浸水の危険性を有しており、住み続けられるよう災害リスクに応じたハード対策（河川管理施設の整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。

■ 基本目標

「まちの顔」である中心拠点として、賑わい便利で快適に暮らせるまち

市中心部としてふさわしい都市機能や居住環境を整え、周辺地域から訪れたい魅力と賑わいづくりに努めます。

水と緑の潤い空間や工業地など鳴門らしい景観を感じるまち

撫養川の親水空間やうずしおふれあい公園等の市街地内の緑は、良好な景観であるとともに、ボートレース鳴門周辺は鳴門らしさのある景観であることから維持・活用に努めます。

災害時の拠点となる施設・機能が充実したまち

フェーズフリーの考え方に基づき、災害時には市本庁舎・消防庁舎を防災拠点とし、市民が安全で安心できる居住環境の形成に努めます。また、洪水による浸水の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（河川管理施設の整備、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（避難体制等）による防災・減災対策に努めます。さらに、鳴門 IC 等の広域交通網を活かし、広域的な災害対応の玄関口としての役割を担うよう努めます。

■ 方針

「まちの顔」である中心拠点として、賑わい便利で快適に暮らせるまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

「まちの顔」としてふさわしい都市機能の集積

- 商業・業務地や沿道商業地において、徒歩や自転車で移動できる範囲に必要な商業・業務機能等の様々な都市機能の維持・誘導を図ります。
- 斎田公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。

市民や関係団体等と連携した魅力ある商店街の振興

- 大道商店街や黒崎バイパス沿道は、市民や関係団体等と連携のもと、空き店舗の活用方法の検討やイベントの創出などにより、県内外の方からも魅力ある商店街を目指します。

住宅地の再整備

- 住宅地は、街路等の整備と維持管理に努めるなど、良好な居住環境の創出に向けた基盤整備を推進します。

賑わいの創出に向けた多様な施設整備

- 娯楽施設等が立地するボートレース鳴門周辺は、更なる賑わいづくりに向け、民間活力を含めた多様な施設整備を図ります。

■ 道路・公共交通の整備方針

快適に利用できる道路の整備

- 都市計画道路である大津橋日出線・斉田撫養港線・南浜大工野線・南浜撫養駅線・南浜林崎線は、未整備区間における整備推進と必要性・実現性を含めた見直しに向けて取り組みます。

公共交通結節点の整備と移動手段の確保

- 鳴門駅や高速鳴門バス停周辺は、交通結節点として連携強化を図るとともに、様々な利用者に配慮した施設整備により利便性向上を努めます。
- バス路線の再編等を視野に入れながら、市民の日常生活における公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 行政・文化・スポーツエリア（市本庁舎・消防庁舎や鳴門市文化会館）
- 商業エリア（大道商店街や黒崎バイパス沿道）
- アーバンスポーツ・レクリエーションエリア（ボートレース鳴門周辺）
- 商業・業務ゾーン、沿道商業ゾーン、住居ゾーン
- 斎田公民館
- 都市計画道路（大津橋日出線・斉田撫養港線・南浜大工野線・南浜撫養駅線・南浜林崎線）
- 鳴門駅、高速鳴門バス停周辺

水と緑の潤い空間や工業地など鳴門らしい景観を感じるまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針、自然環境・景観の保全年針

鳴門らしさのあるシンボリックな景観の維持・活用

- 鳴門市文化会館前の撫養川親水公園は、憩い空間としての整備と活用を促進します。
- 南浜から木津にかけての撫養街道沿いは、趣のある建物を有することから、地域の実情に沿った景観づくりを検討します。

拠点性の高い工業地の維持

- ボートレース鳴門周辺の工業地は、工場や倉庫等が集積し、工業・流通の拠点となっていることから、機能性や利便性に配慮した整備に努めます。
- なるとソフトノミックスパークは、周辺の自然環境との調和に配慮しつつ、既存の企業立地を活かしながら産業振興を図ります。
- 国道 11 号沿道は、既存の工業団地と連携しつつ、交通利便性を活かした新しい産業・流通業等への計画的な土地利用を推進します。

生産性の高い農地の保全

- 地域内には、周辺地域の産地に隣接する生産性の高い作物が栽培されていることから、住環境との調和に配慮しつつ関係団体等と連携しながら適正な農地の保全に努めます。

■ 公園・緑地の整備方針

中心部における憩いの場の維持管理と活用

- うずしおふれあい公園・木津城山公園・桑島公園等は、魅力と質の向上を図り、適切な維持管理と活用を促進します。
- 撫養川・新池川は、緑の多い歩道と美しい水辺空間の形成を図るとともに、健康づくりのための親水空間として整備・充実に努めます。

■ 生活環境の整備方針

公共下水道の効果的かつ計画的な整備

- 公共下水道は、快適な潤いのある住環境を創出するため、効果的かつ計画的な整備と維持管理を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 行政・文化・スポーツエリア（鳴門市文化会館や撫養川・新池川）
- アーバンスポーツ・レクリエーションエリア（ボートレース鳴門周辺）
- 工業ゾーン、新産業・流通ゾーン、都市緑地ゾーン・農用地・集落地ゾーン
- うずしおふれあい公園・木津城山公園・桑島公園等

災害時の拠点となる施設・機能が充実したまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

市本庁舎の整備と既存施設の活用

- 市本庁舎・消防庁舎は、災害時の指令拠点として、また、復興活動や生活再建の拠点として機能強化を図るとともに、フェーズフリーの考え方に基づいた施設の活用を推進します。
- UZUPARK や UZUHALL は、災害時における避難所運営や緊急物資の配給地点となるなど様々な施設の活用を検討します。
- 鳴門駅西側及び商店街周辺における民間のホテルは、災害時に宿泊施設として利用できるよう連携を図ります。

河川による浸水対策

- 国や県などの関係機関と連携を図りながら、吉野川水系流域治水プロジェクト（撫養川・新池川）に示される堤防整備等を促進します。

山裾の土砂災害対策

- 桑島公園周辺や市街化区域縁辺部における土砂災害対策を促進します。

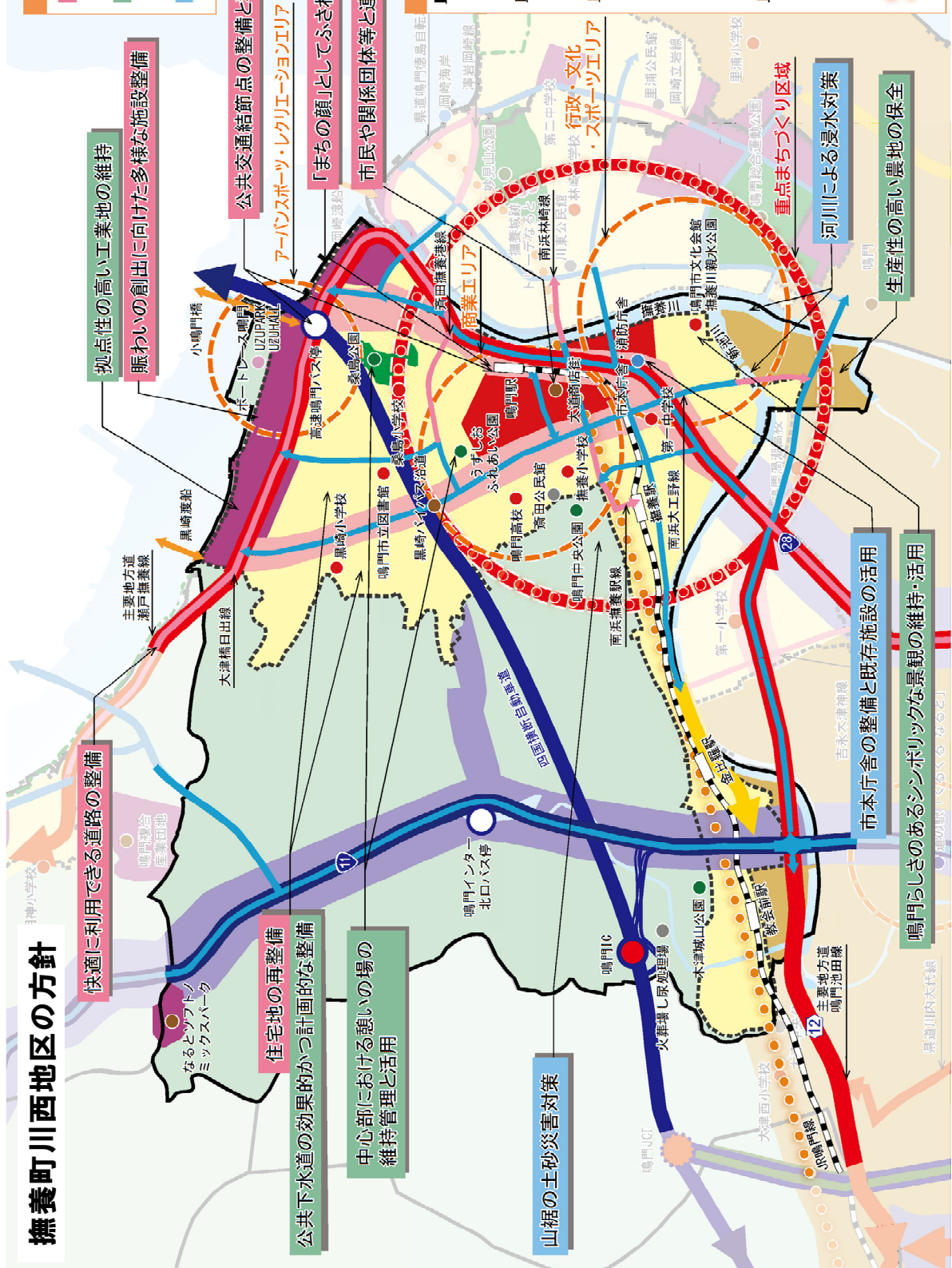
【関連するエリアや施設】

- 行政・文化・スポーツエリア（市本庁舎・消防庁舎）
- アーバンスポーツ・レクリエーションエリア（ボートレース鳴門周辺）
- 鳴門駅西側及び商店街周辺
- 撫養川・新池川
- 桑島公園周辺や市街化区域縁辺部

撫養町川西地区の方針

撫養町川西地区の基本目標

- 「まちの顔」である中心拠点として、賑わい・便利で快適に暮らせるまちの実現に向けた方針
- 水と緑の潤い空間や工業地など、鳴門らしい景観を感じるまちの実現に向けた方針
- 災害時の拠点となる施設・機能が充実したまちの実現に向けた方針



2-2. 撫養町川東地区

■ 現状・課題

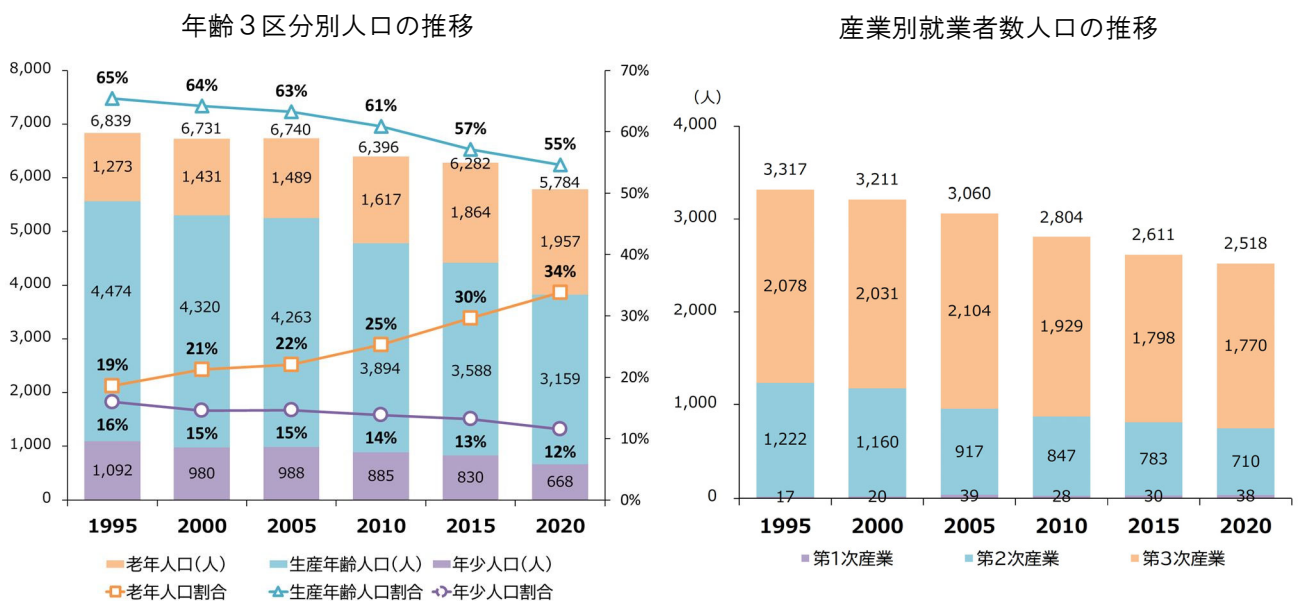
【人口】

○総人口は、1995年から2020年にかけて約1,000人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約15%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約4%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約800人減少しています。



【土地利用】

○土地区画整理事業により都市基盤が整った良好な住宅地が形成されていますが、未利用地の活用や街路の維持補修等による整備が重要です。

○岡崎・弁財天地区では、狭い道路網に木造住宅が密集していることから防災面で課題を有しています。

○妙見山公園内に立地するトリードナート（旧県立鳥居記念博物館）は、防災・交流拠点としてリニューアルを実施したことから、利活用の促進が重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○都市計画道路湊岩岡崎線・南浜林崎線・林崎岡崎線・岡崎立岩線は整備を進めてきましたが、未整備区間が残されていることから、必要性や実現性に応じた計画的な整備・見直しが重要です。

○鳴門総合運動公園や妙見山公園、撫養川などの水と緑が多い市街地であり、市民の身近な公園として質の向上と適切な維持管理が重要です。

○撫養街道沿いの地区では昔の趣を残す建物が年々少なくなっていることから、地域の実情に合わせ、伝統的な街並みを活かした景観づくりに取り組むことが重要です。

○市街地内の街路樹などの緑の景観を改善することが重要です。

【都市防災】

- 津波による浸水の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（海岸保全施設の整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。
- 防災・交流拠点としてリニューアルしたトリードなるとの利活用の促進が重要です。
- 市民アンケートで「津波」による被害が心配されており、「津波発生時に向けた海岸保全施設の整備」等が望まれています。

■ 基本目標

水と緑が豊富な健康的なまち

鳴門総合運動公園や撫養川など良好な水と緑の景観を活かしながら、行政・文化・スポーツエリア内の鳴門市文化会館、市本庁舎・消防庁舎等との連携を図るとともに、スポーツやレクリエーション空間として健康的なまちの形成に努めます。

撫養街道など伝統的な景観を守る快適な住環境のまち

歴史的な撫養街道沿いにおける建築物の良好な景観を保全・活用するとともに、密集した市街地の居住環境を整え、住みやすさと趣が両立したまちの形成を図ります。

津波等の災害に対応できるまち

津波による浸水の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（海岸保全施設の整備、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

水と緑が豊富な健康的なまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針、公園・緑地の整備方針、自然環境・景観の保全年針

鳴門総合運動公園等の健康的な場の整備・活用

- 鳴門総合運動公園は、市民だけでなく、県内外等の様々な方が利用するスポーツの場として、県と連携した適切な維持管理に努めます。
- 撫養川は、市民が親しみやすいよう親水・水辺空間として護岸整備や活用を促進します。

健康で活気あるまちの基盤づくりに向けた多様な施設整備

- 鳴門総合運動公園周辺は、健康で活気あるまちの基盤づくりに向け、民間活力を含めた多様な施設整備を図ります。

妙見山公園等の整備・活用

- 妙見山公園は、市街地内の貴重な緑地として保全するとともに、安全で快適に利用できるよう適切な維持管理に努めます。

- トリーデなると（旧県立鳥居記念博物館）は、鳴門市の眺望を見渡せる市のシンボルであり交流の場として維持管理と活用を促進します。

【関連するエリアや施設】

- 行政・文化・スポーツエリア（鳴門総合運動公園、撫養川）
- 妙見山公園、トリーデなると（旧県立鳥居記念博物館）

撫養街道など伝統的な景観を守る快適な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 自然環境・景観の保全方針

撫養街道の古き良き住景観の維持

- 撫養街道（弁財天岡崎線・林崎弁財天線・文明橋線）は、古き良き建築物の保全と地域の実情に沿った景観づくりを検討します。
- 木造住宅が密集しているエリアは、地域の実情に応じ、空き家の除却、街路整備、ポケットパークの整備等により改善するなど、伝統的で趣のある住環境の形成を図ります。

■ 土地利用の方針

住宅地の再整備と地域コミュニティの維持

- 住宅地は、街路等の整備と維持管理に努めるなど、良好な居住環境の創出に向けた基盤整備と土地の有効活用を図ります。
- 川東公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。

工業地の維持と利便性向上

- 立岩地区の工業地は、製造業の拠点となっていることから、工業地としての機能の維持や地域内道路の整備等による利便性向上を図ります。

■ 道路・公共交通の整備方針

快適に利用できる道路整備と移動手段の確保

- 都市計画道路である湊岩岡崎線・南浜林崎線・林崎岡崎線・岡崎立岩線は、未整備区間における整備推進と必要性・実現性を含めた見直しに向けて取り組みます。
- 市民の日常生活の移動を支える公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 工業ゾーン、住居ゾーン、都市緑地ゾーン
- 都市計画道路（湊岩岡崎線・南浜林崎線・林崎岡崎線・岡崎立岩線）
- 撫養街道（弁財天岡崎線・林崎弁財天線・文明橋線）
- 川東公民館

津波等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

災害時におけるトリーデなると等の活用

- トリーデなるとは、防災・交流拠点であり、物資の集積場所、避難所・避難場所の役割を見据えた維持管理と利活用を促進します。
- 妙見山公園などにおける避難路の維持・確保を図り、避難の円滑化を促進します。

河川・高潮・津波による浸水対策

- 吉野川水系流域治水プロジェクト（撫養川）に示される地震・津波対策等を促進します。
- 高潮・津波の浸水対策として、県等と連携しながら、海岸保全施設の適切な維持管理に努めます。
- 排水機場の整備・長寿命化を推進します。

山裾の土砂災害対策

- 妙見山沿いにおける土砂災害対策を促進します。

【関連するエリアや施設】

○トリーデなると ○妙見山公園 ○撫養川 ○撫養港・岡崎港

撫養町川東地区の方針図

アーバンスポーツ・レクリエーションエリア

撫養町川東地区の基本目標

- 水と緑が豊富な健康的なまちの実現に向けた方針
- 撫養街道など伝統的な景観を守る快適な住環境のまちの実現に向けた方針
- 津波等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針



2-3. 里浦町

■ 現状・課題

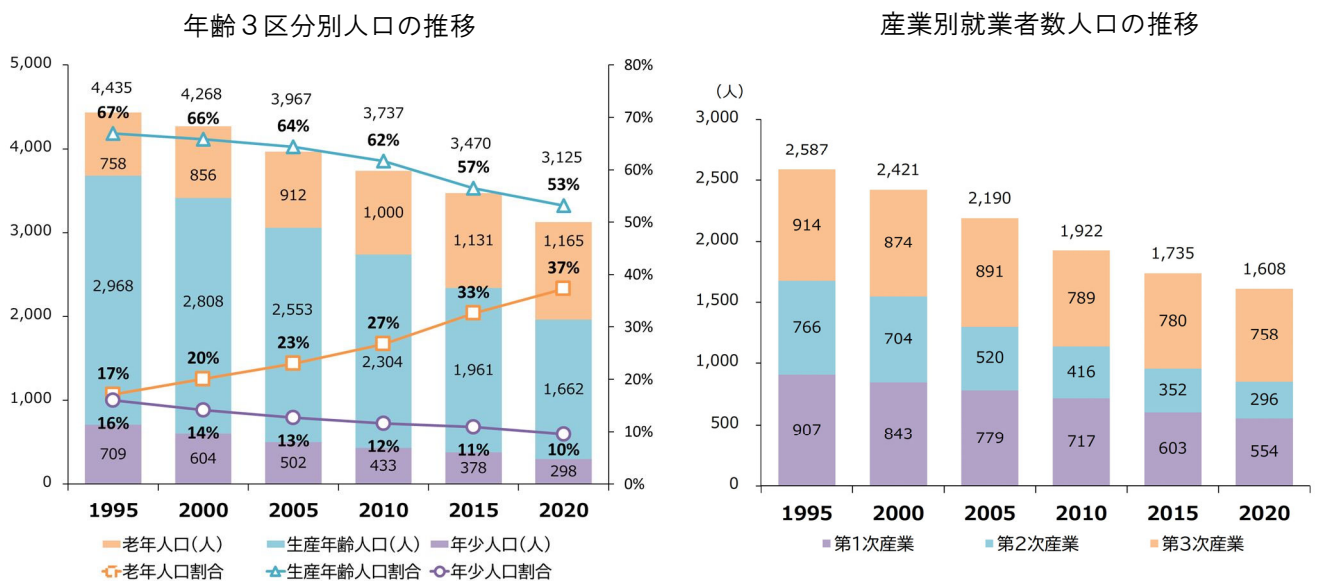
【人口】

○総人口は、1995年から2020年にかけて約1,300人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約20%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約6%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約1,000人減少しています。



【土地利用】

○住宅地は、里浦公民館周辺に密集しており、災害に強い良好な居住地の形成に向けた、計画的な市街地整備が重要です。

○東部は、優良農地であることから生産性の向上を図り、都市近郊型農業地帯として維持・保全していくことが重要です。また、市街地の無秩序な拡大の抑制も重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○都市計画道路岡崎立岩線は整備を進めてきましたが、未整備区間が残されていることから、必要性や実現性に応じた計画的な整備・見直しが重要です。

【都市防災】

○津波による浸水の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（海岸保全施設の整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。

○市民アンケートで「津波」による被害が心配されており、「津波発生時に向けた海岸保全施設の整備」等が望まれています。

■ 基本目標

生活と営み(農業・漁業)のバランスのとれたまち

紀伊水道に面した砂地畑に広がる優良農地を適切に守りながら、かんしょ、大根の二毛作などによる生産力の向上を図るとともに、生活環境の維持・向上に向けた取組に努めます。

住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまち

コンパクトで良好な居住環境の形成に向けて、無秩序な開発が行われないよう適切な土地利用の誘導を図るとともに、住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な居住環境の形成に努めます。

津波等の災害に対応できるまち

津波による浸水の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（海岸保全施設の整備、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

生活と営み(農業・漁業)のバランスのとれたまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

農業・漁業の振興と地域コミュニティの維持

- 本地域の大部分を占める農地は、かんしょや大根の集団産地であり、生産性の向上を図るため、必要な基盤整備を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化に努めます。
- 広大な農地が広がり、その中に点在する集落、かつての防風林であった松林など里浦町にしかない農の景観の保全と活用を推進します。
- 粟津漁港は必要となる施設整備を図ります。
- 農用地や漁港周辺の集落地は、環境との調和を図りながら、農業者・漁業者の生活の場としての機能の維持によりコミュニティの維持・活性化を促進します。

【関連するエリア】

○農用地・集落地ゾーン

○粟津漁港

住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

住宅地における居住環境の改善と地域コミュニティの維持

- 里浦公民館周辺など一部の住宅密集地は、建て替え時のセットバックによる細街路の拡幅やポケットパークの整備などにより、地域の特性に応じた住環境の向上を推進します。

- 幹線道路沿いを中心に商店が立地し、住宅と混在した土地利用となっているため、市街地の無秩序な拡大を抑制しつつ、快適な住宅地としての土地利用を推進します。
- 住宅と農地の混在した土地利用となっているため、比較的低密度で良好な住宅地としての土地の有効利用を図ります。
- 里浦公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。

撫養町川東地区から連続する工業地の維持と利便性向上

- 撫養町川東地区から連続する工業地は、機能の維持や地域内道路の整備等による利便性向上を図ります。
- 住宅地は、一部において工業系土地利用との混在がみられることから、土地利用動向を踏まえ、既存住宅の建て替え等に併せた適切な土地利用を推進します。

■ 道路・公共交通の整備方針

快適に利用できる道路整備と移動手段の確保

- 都市計画道路である岡崎立岩線は、未整備区間における整備推進と必要性・実現性を含めた見直しに向けて取り組みます。
- 岡崎海岸から大手海岸を通り栗津漁港に至る県道鳴門徳島自転車道は、海辺の環境を活かしたサイクリングロードとして活用を促進します。
- 市民の日常生活の移動を支える公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 住居ゾーン、工業ゾーン、農用地・集落地ゾーン
- 里浦公民館
- 都市計画道路（岡崎立岩線）

津波等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

災害時における里浦南防災センター等の活用

- 里浦南防災センター・里浦小学校などは、津波避難施設として維持・活用を促進します。

河川・高潮・津波による浸水対策

- 吉野川水系流域治水プロジェクト（撫養川）に示される地震・津波対策等を促進します。
- 高潮・津波の浸水対策として、県等と連携しながら、海岸保全施設の適切な維持管理に努めます。
- 排水機場の整備・長寿命化を推進します。

山裾の土砂災害対策

- 瀬戸内海国立公園に指定されているいわし山沿いにおける土砂災害対策を促進します。

【関連するエリアや施設】

- 里浦南防災センター・里浦小学校等
- 撫養川、岡崎港・大手海岸・栗津漁港



2-4. 鳴門町

■ 現状・課題

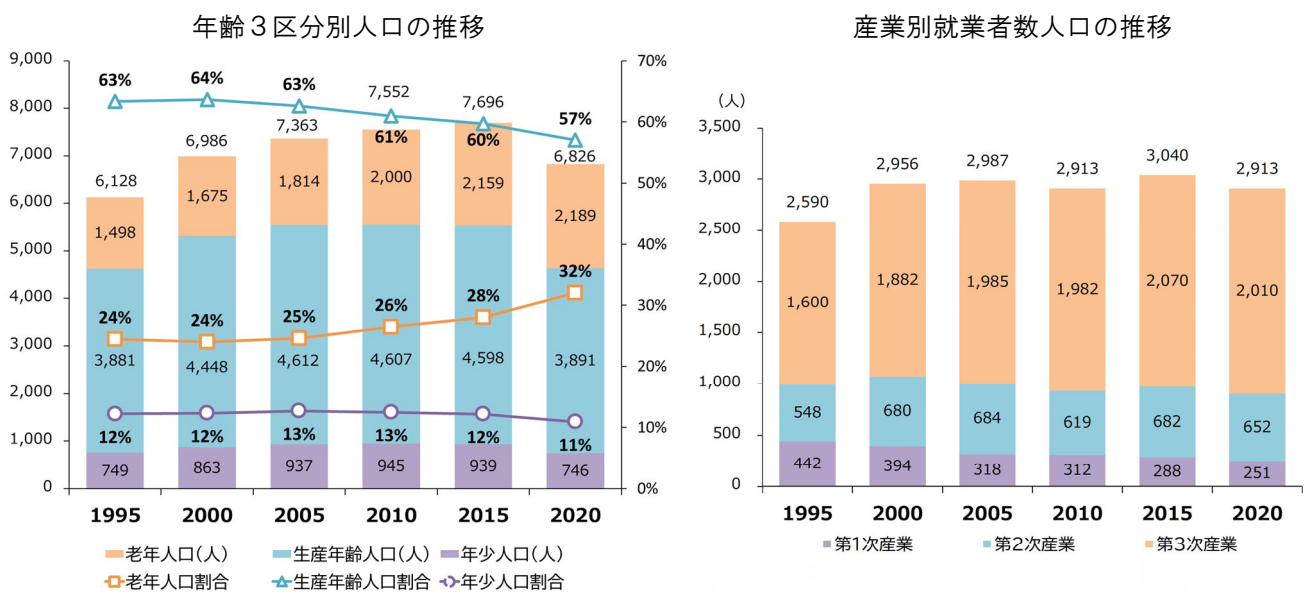
【人口】

○総人口は、1995年から2015年にかけて土地区画整理事業の実施の影響に伴い、約1,500人増加し、2020年は約800人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約8%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約1%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約300人増加しています。



資料：総務省 国勢調査

【土地利用】

○高島地区に立地する鳴門教育大学や市内の小・中学校、就学前教育・保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）と一層の連携を図り、教育環境の向上に努めることが重要です。

○住宅地は、土地区画整理事業により都市基盤が整った良好な住宅地が形成されている一方で、利用されていない未利用地が点在していることから活用を促進することが重要です。

○地区内には商業地がないため、日常の買い物を市中心部とその周辺部に依存しており、高齢化の進展に伴い移動困難者の増加が予想されることから、市中心部とのネットワークの維持・強化が重要です。

○高島地区の一部の住宅地は、狭い道路沿いに木造住宅が密集していることから防災面で課題を有しています。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○鳴門ウチノ海総合公園や鳴門塩田公園などの水と緑が多い市街地であり、市民の身近な公園として、また、観光客等の来訪者が訪れる場所として、質の向上と適切な維持管理・活用が重要です。

- 都市計画道路黒山中山線は整備を進めており、未整備区間が残されていることから、計画的に取り組むことが重要です。都市計画道路横山高島線は整備を進めてきましたが、未整備区間が残されていることから、必要性や実現性に応じた計画的な整備・見直しが重要です。
- 大型連休などの際には鳴門公園周辺の道路渋滞が発生していることから、道路ネットワークの強化や周遊ルートの整備が重要です。
- 市中心部を結ぶ路線バスが運行され、多くの観光客が集まることから、更なる地域の魅力向上とPR強化を図るとともに、この地域に訪れた人を他の地域へ回遊させる仕組みを検討することが重要です。
- 瀬戸内海国立公園として、景観の保護や観光地としての魅力向上が重要です。

【都市防災】

- 津波による浸水の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（海岸保全施設の整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。
- 市民アンケートで「津波」による被害が心配されており、「津波発生時に向けた海岸保全施設の整備」等が望まれています。

■ 基本目標

本市を代表する観光拠点として海辺の景観と地域資源を活かした魅力あるまち

瀬戸内海国立公園に指定された自然環境が豊かな景勝地であり、鳴門公園や大塚国際美術館、大毛海岸沿いのリゾート施設等の魅力を活かしながら、市中心部などとも連携を図った観光振興に努めます。

海と緑に囲まれ学びと遊びが共存する快適な住環境のまち

鳴門ウチノ海総合公園等の緑の活用、鳴門教育大学における市内学校等との連携や学園都市化構想に向けた取組などを進め、快適な居住環境の形成に努めます。

津波等の災害に対応できるまち

津波による浸水の危険性が高いことから、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（海岸保全施設の整備、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

本市を代表する観光拠点として海辺の景観と地域資源を活かした魅力あるまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

鳴門の渦潮などの地域資源を更に活かすための基盤整備

- 瀬戸内海国立公園に指定されている鳴門公園や鳴門の渦潮などの観光地は、観光需要に応じて必要となる基盤整備を検討するとともに、自然環境の保護と乱開発の防止に努めます。
- 鳴門スカイラインにおける美しい自然景観と既存の観光施設・資源を活かし、新たな施設整備を検討します。
- 国重要文化財の福永家住宅は、歴史・文化的資源として保存・活用に努めます。
- 都市計画道路黒山中山線の整備に伴う新たな開発需要に応じた土地利用を推進します。

■ 道路・公共交通の整備方針

鳴門中心部との連携強化や市内への回遊性の向上

- 市民の日常生活を支える公共交通及び鳴門中心部への観光客の交通利便性の維持・確保に向けた取組を推進します。
- 鳴門公園周辺部における交通渋滞の緩和に向けた道路ネットワークや周遊ルートの整備・充実を図ります。
- 鳴門スカイライン（県道亀浦港櫛木線）は、生活道路としての利用環境や観光地における回遊性向上を図るため、県と連携した適切な維持管理に努めます。

【関連するエリアや施設】

- 自然・観光エリア（鳴門公園、大塚国際美術館）
- 島しょ部・山林ゾーン
- 鳴門スカイライン
- 福永家住宅

海と緑に囲まれ学びと遊びが共存する快適な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

鳴門教育大学や市内学校等との連携及び教育環境の充実

- 鳴門教育大学や市内の小・中学校、就学前教育・保育施設（保育所・幼稚園・認定こども園）などとの連携強化を図り、学園都市化構想に向けた取組や ICT の活用などを推進するとともに、計画的に市内学校等における施設整備やバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化に努めます。

住宅地における居住環境の改善と地域コミュニティの維持

- 住宅地は、土地区画整理事業により都市基盤が整った良好な市街地を維持するとともに未利用地が点在していることから、土地の有効活用を促進します。
- 木造住宅が密集しているエリアは、地域の実情に応じ、空き家の除却、街路整備、ポケットパークの整備等により改善するなど居住環境の向上を図ります。
- 鳴門公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。

農業・漁業の振興と地域コミュニティの維持

- 本地域東部の農地はらっきょうの集団産地であり、生産性の向上を図るため、必要な基盤整備を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化に努めます。
- 土佐泊漁港や亀浦漁港は、必要となる施設整備を図ります。
- 農用地や漁港周辺の集落地は、環境との調和を図りながら、農業者・漁業者の生活の場としての機能の維持によりコミュニティの維持・活性化を促進します。

■ 道路の整備方針

快適に利用できる道路整備

- 都市計画道路である横山高島線・黒山中山線は、未整備区間における整備推進と必要性・実現性を含めた見直しに向けて取り組めます。

■ 公園・緑地の整備方針

鳴門ウチノ海総合公園の憩いの場の維持管理と活用

- 鳴門ウチノ海総合公園や鳴門塩田公園などの公園は、市民の憩いの場であるとともに、観光客等の来訪者も訪れる場として、周辺の景観を活かしながら、適切な維持管理と活用を促進します。

【関連するエリアや施設】

- 自然・観光エリア（鳴門ウチノ海総合公園・鳴門塩田公園）
- 文教エリア（鳴門教育大学）
- 住居ゾーン、都市緑地ゾーン、農用地・集落地ゾーン
- 土佐泊漁港や亀浦漁港
- 鳴門公民館
- 都市計画道路（横山高島線・黒山中山線）

津波等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

災害時における鳴門教育大学やコミュニティセンターの活用

- 鳴門教育大学や周辺の小・中学校は、災害時は屋内運動場を避難場所として利用できるよう連携を図ります。
- 鳴門東地区コミュニティセンターは、日常時は地域コミュニティの維持を図る拠点であるとともに、災害時は避難場所や避難所としての活用を促進します。

高潮・津波による浸水対策

- 高潮・津波の浸水対策として、県等と連携しながら、海岸保全施設の適切な維持管理に努めます。

山裾の土砂災害対策

- 高島地区や大毛島等の山間沿いにおける土砂災害対策を促進します。

【関連するエリアや施設】

- 鳴門教育大学、鳴門東地区コミュニティセンター
- 大毛海岸・土佐泊漁港・亀浦漁港

鳴門町の方針図

鳴門町の基本目標

- 本市を代表する観光拠点として海辺の景観と地域資源を活かした魅力あるまちの実現に向けた方針
- 海と緑に囲まれ学びと遊びが共存する快適な住環境のまちの実現に向けた方針
- 津波等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

鳴門の渦潮などの地域資源を更に活かすための基盤整備

鳴門中心部との連携強化や市内への回遊性の向上

渦の道 大鳴門橋

高潮・津波による浸水対策

自然・観光エリア

快適に利用できる道路整備

鳴門ウチノ海総合公園の憩いの場の維持管理と活用

住宅地における居住環境の改善と地域コミュニティの維持

鳴門教育大学や市内学校等との連携及び教育環境の充実

災害時における鳴門教育大学やコミュニティセンターの活用

農業・漁業の振興と地域コミュニティの維持

山裾の土砂災害対策

凡例

まちづくりエリア

新たなまちづくりエリア

拠点施設

- 観光施設
- 公園
- 漁港・海岸
- 教育・文化施設
- 生活施設

土地利用

- 住居ゾーン
- 都市緑地ゾーン
- 農用地・集落地ゾーン
- 島しょ部・山林ゾーン

道路

- 広域連携軸
- 地域連携軸
- 地域連携軸（都市計画道路整備済）
- 地域連携軸（都市計画道路事業中）
- 地域連携軸（都市計画道路未改良）
- IC

自然環境・景観

国立公園・県立自然公園

景観ネットワーク

- 鳴門公園地区～北灘地区
- 市街化区域

2-5. 瀬戸町

■現状・課題

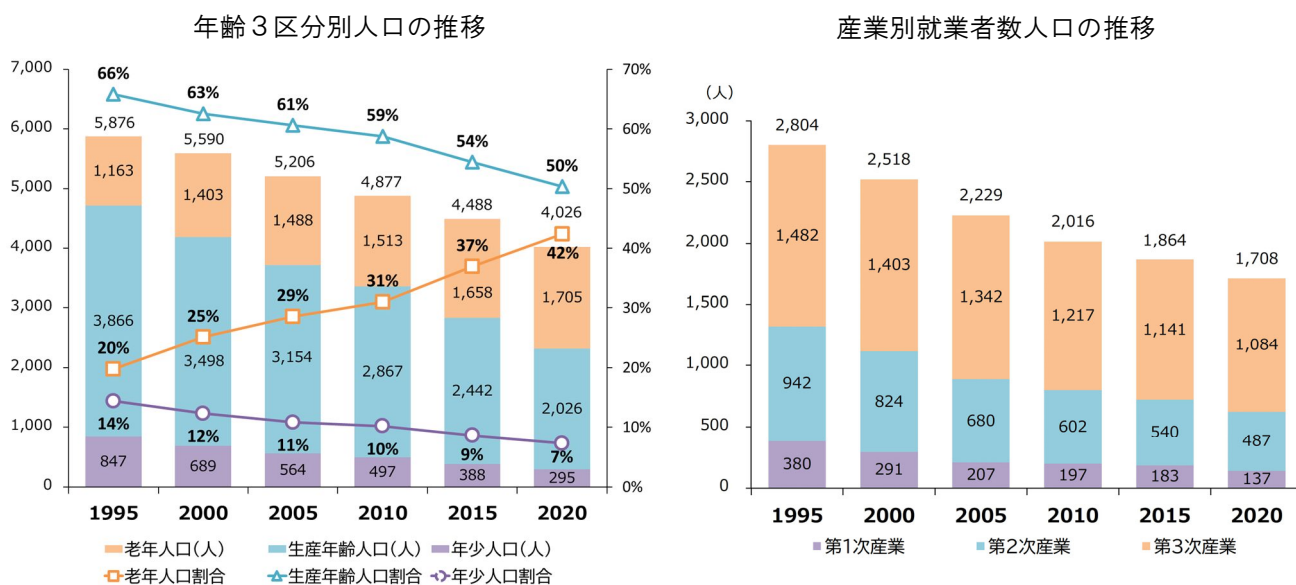
【人口】

○総人口は、1995年から2020年にかけて約1,800人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約22%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約7%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約1,100人減少しています。



【土地利用】

○明神地区の住宅地は、水と緑が豊富であり、土地区画整理事業により都市基盤が整った良好な住宅地が形成されていますが、未利用地の活用や街路の維持補修等による整備が重要です。

○堂浦・北泊・大島田地区は、山際の限られた平地に住宅が密集した特徴的な漁村集落が形成されており、狭い道路沿いに木造住宅が密集していることから防災面で課題を有しています。

○人口減少・少子高齢化が進んでおり、特に島しょ部などでは集落間の距離が遠いため、地域コミュニティの維持に向けた対策が重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○都市計画道路大津橋日出線は整備を進めてきましたが、未整備区間が残されていることから、必要性や実現性に応じた計画的な整備・見直しが重要です。

○鳴門町等とあわせて瀬戸内海国立公園に指定されており、道路ネットワークの強化や周遊ルートの整備が重要です。

○市中心部や北灘町を結ぶ路線バスが運行されており、地区内に商業地が無いことから、高齢化の進展や移動困難者の増加に配慮した公共交通の維持・確保が重要です。

【都市防災】

- 土砂災害の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（土砂災害対策や避難路の確保に向けた道路整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。
- 瀬戸町では、北泊公民館から瀬戸公民館にかけて、また、撫佐漁港周辺部において経年的に台風による被害が発生していることから対策が重要です。

■ 基本目標

美しい海と島の暮らしを守り育むまち

瀬戸内海国立公園の景勝地であり、鳴門スカイラインからの美しい眺望などを保全・活用するとともに、漁業の振興とあわせて、市民の暮らしを守り続ける取組に努めます。

住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまち

コンパクトで良好な居住環境の形成に向けて、無秩序な開発が行われないよう適切な土地利用の誘導を図るとともに、住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な居住環境の形成に努めます。

土砂災害等の災害に対応できるまち

土砂災害の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（土砂災害防止、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

美しい海と島の暮らしを守り育むまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針、自然環境・景観の保全方針

鳴門スカイライン沿道などの美しい景観の活用

- 地域の島しょ部・山林部のほとんどが瀬戸内海国立公園に指定されていることから、自然環境の保全と乱開発の防止に努めます。
- 島田島と鳴門公園の周遊ルートとなる鳴門スカイライン沿道は、眺望の景観を活かしつつ、国・県と連携を図りながら維持管理に努めるとともに、自然資源の活用や土地の有効利用を検討します。

農業・漁業の振興と地域コミュニティの維持

- 日出漁港・瀬戸漁港・撫佐漁港・室漁港は、必要となる施設整備を図ります。
- 漁業を中心とする集落地は、環境との調和を図りながら、漁業者の生活の場としての機能の維持によりコミュニティの維持・活性化を促進します。

- 瀬戸公民館・北泊公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。
- 農用地として生産性の向上を図るため農業関連施設の保全を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化に努めます。
- 旧島田小学校、旧瀬戸小学校（付設幼稚園含む）は、地域の要望や実情を踏まえながら民間活力の導入も含めた地域活性化に向けて利活用を促進します。

■ 道路の整備方針

市内への回遊性の向上

- 鳴門町等と併せた道路ネットワークや周遊ルートの整備充実を図ります。
- 鳴門スカイライン（県道亀浦港櫛木線）は、生活道路としての利用環境や観光地の回遊性向上を図るため、県と連携した適切な維持管理に努めます。

【関連するエリアや施設】

- | | |
|----------------------|----------------|
| ○島しょ部・山林ゾーン | ○鳴門スカイライン、島田島 |
| ○瀬戸公民館・北泊公民館 | ○旧島田小学校・旧瀬戸小学校 |
| ○日出漁港・瀬戸漁港・撫佐漁港・室漁港等 | |

住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

住宅地における居住環境の改善と土地の有効活用

- 住宅地は、土地区画整理事業により都市基盤が整った良好な市街地を維持するとともに、未利用地が点在していることから、土地の有効活用を促進します。
- 幹線道路沿いを中心に商店が立地し、住宅と混在した土地利用となっているため、市街地の無秩序な拡大を抑制しつつ、快適な住宅地としての土地利用を推進します。
- 木造住宅が密集しているエリアは、地域の実情に応じ、空き家の除却、街路整備、ポケットパークの整備等により居住環境の向上を図ります。

拠点性の高い工業地の維持と産業振興

- 鳴門複合産業団地は、周辺の自然環境との調和にも配慮しつつ、既存の企業立地を活かしながら産業振興を図ります。
- 明神丸山地区周辺は、工業地としての機能を維持するとともに、一部で住居系土地利用と混在していることから、土地利用動向を踏まえ、既存住宅の建て替え等にあわせて適切な土地利用を促します。
- クリーンセンター周辺は、自然環境との調和を図るため、「フクロウと子どもたちの森」の維持・活用を促進します。

■ 道路・公共交通の整備方針

快適に利用できる道路整備と移動手段の確保

- 都市計画道路である大津橋日出線は、未整備区間における整備推進と必要性・実現性を含めた見直しに向けて取り組みます。
- 市中心部との公共交通による連携強化に向け、デマンド型交通の導入等を視野に入れながら、市民の日常生活における公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 工業ゾーン、新産業・流通ゾーン、住居ゾーン
- 鳴門複合産業団地
- 都市計画道路（大津橋日出線）

土砂災害等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

高潮・津波による浸水対策

- 高潮・津波の浸水対策として、県等と連携しながら、海岸保全施設の適切な維持管理に努めます。

山裾の土砂災害対策

- 明神地区や堂浦・北泊・大島田地区等の山間沿いにおける土砂災害対策を促進します。

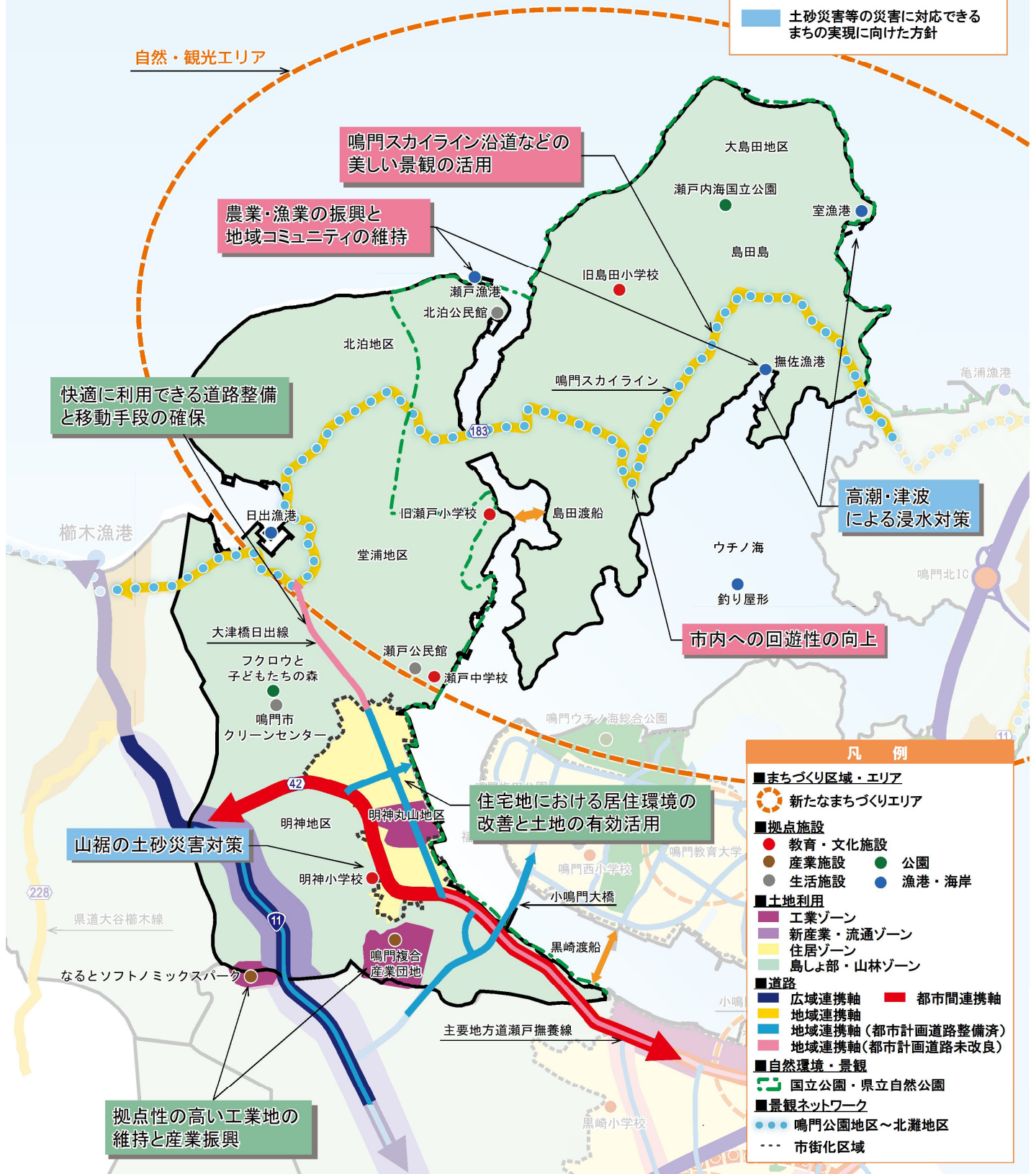
【関連するエリアや施設】

- 日出漁港・瀬戸漁港・撫佐漁港・室漁港

瀬戸町の方針図

瀬戸町の基本目標

- 美しい海と島の暮らしを守り育むまちの実現に向けた方針
- 住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまちの実現に向けた方針
- 土砂災害等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針



2-6. 大津町

■ 現状・課題

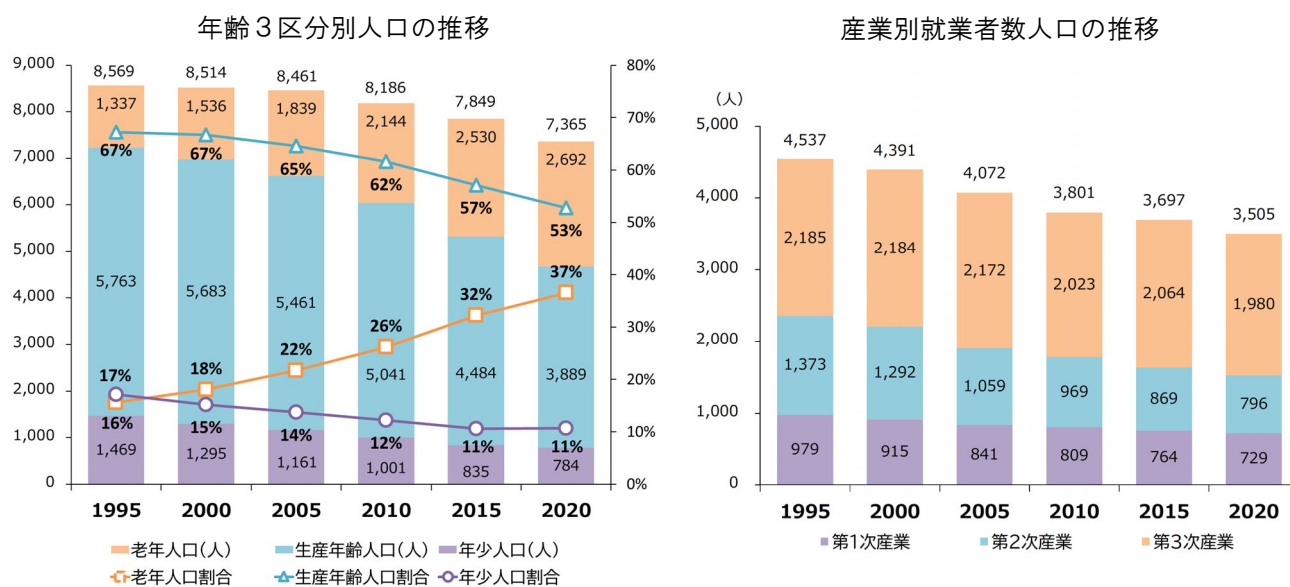
【人口】

○総人口は、1995年から2020年にかけて約1,200人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約21%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約6%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約1,000人減少しています。



【土地利用】

○国道11号や国道28号沿道は、交通の利便性が高い地域であり、商業・サービス施設の立地が進んでいる一方、従来から生産性の高い農用地であるため、優良農地の保全に配慮しつつ土地の有効利用を検討することが重要です。

○郊外型住宅用の宅地開発が見られることから、農地と住宅地が混在している地域では、長期的な展望のもとで市街地拡大とならないよう適切な土地利用を推進することが重要です。

○国道11号沿道における道の駅「くるくる なんと」を活用しながら、賑わい創出に向けた取組を進め、地域活性化を図ることが重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○都市計画道路大津橋日出線、吉永木津神線は整備を進めてきましたが、未整備区間が残されていることから、必要性や実現性に応じた計画的な整備・見直しが重要です。

【都市防災】

○津波や河川による浸水の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（河川管理施設の整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。

○市民アンケートで「水害」による被害が心配されており、「豪雨時の雨水排水施設の整備」等が望まれています。

■ 基本目標

生活と営み(農業)のバランスのとれたまち

かんしょ・大根・れんこん・梨を中心とした優良農地を適切に守りながら、生産力の向上を図るとともに、生活環境の維持・向上に向けた取組に努めます。

賑わいと活気ある商業環境と良好な住環境のまち

道の駅「くるくる なんと」を核として、国道 28 号沿道など主要幹線道路沿いへの商業空間の形成等を促し、無秩序な開発が行われないよう適切な土地利用の誘導を図るとともに、住宅地、工業地、農用地などが調和した快適な居住環境の形成に努めます。

河川洪水等の災害に対応できるまち

津波や河川による浸水の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（雨水排水施設の整備、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

生活と営み(農業)のバランスがとれたまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

生産力のある優良農地の保全・活用と地域コミュニティの維持

- 地域の大部分を占める農地は、かんしょ・大根・れんこん・梨を中心とした優良農地であり、自然環境に配慮しつつ農業基盤の整備を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化を図ります。
- 農用地周辺の集落地は、環境との調和を図りながら、農業者の生活の場としての機能の維持によりコミュニティの維持・活性化を促進します。
- 大津中央公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。
- 山林部は、自然環境や景観の維持保全を図るため、乱開発の防止に努めます。

【関連するエリアや施設】

○農用地・集落地ゾーン

○島しょ部・山林ゾーン

○大津中央公民館

賑わいと活気ある商業環境と良好な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

道の駅「くるくる なると」の活用

- 道の駅「くるくる なると」は、市民や来訪者が集い、市内産業の活性化を促進し、賑わいや活力を創出する場として、交流・定住・移住の促進に繋がる取組に努めるなど、更なる活用を検討します。

産業の活性化に向けた土地利用を検討

- 主要地方道鳴門池田線沿道は、周辺の良い沿道景観の形成等に配慮しながら、ロードサイド型の商業・サービス施設の立地を促進します。
- 国道 28 号沿道及び大津橋から南の地区は、都市的土地利用が多く、松茂町と連続した市街地が形成されていることから、長期的な視点で商業等の集積を促進します。
- 国道 11 号沿道や主要地方道徳島鳴門線沿道は、徳島空港や鳴門インターチェンジなどへのアクセスが良好である地域特性を活かし、新しい産業・流通業等への計画的な土地利用を促します。

住宅地における土地の有効活用

- 住宅地は、沿道商業地に近いことから生活利便性が高く、水と緑が多い良好な環境を活かし、比較的低密度で良好な住宅地として土地の有効活用を促進します。
- 住宅・商業・農地の混在した土地利用となっているため、市街地の無秩序な拡大を抑制しつつ、周辺環境に配慮した快適な住宅地としての土地利用を推進します。
- 撫養街道沿いは、隣接する地域との連携のもと、地域の実情に沿った景観づくりに向け検討します。

■ 道路・公共交通の整備方針

快適に利用できる道路整備と移動手段の確保

- 都市計画道路である大津橋日出線・吉永木津神線は、未整備区間における整備推進と必要性・実現性を含めた見直しに向けて取り組みます。
- 路線バスの再編等を視野に入れながら、市民の日常生活における公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 交流・交通エリア（道の駅「くるくる なると」）
- 沿道商業ゾーン、新産業・流通ゾーン、住居ゾーン
- 都市計画道路（大津橋日出線・吉永木津神線）

河川洪水等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

災害時における道の駅「くるくる なんと」の活用

○道の駅「くるくる なんと」は、日常時は地域活性化を図る拠点であり、災害時は避難場所、災害対応時における避難の活動拠点、復旧復興段階における食料供給など様々な役割を担うことから、必要となる防災機能の導入・充実により、災害に強い施設づくりを推進します。

河川による浸水対策

○吉野川水系流域治水プロジェクト（撫養川・新池川・旧吉野川）に示される堤防整備等を促進します。

山裾の土砂災害対策

○鳴門 JCT 周辺における土砂災害対策を促進します。

【関連するエリアや施設】

○道の駅「くるくる なんと」
○鳴門 JCT 周辺

○撫養川・新池川・旧吉野川

大津町の方針図

大津町の基本目標

- 生活と営み（農業）のバランスがとれたまちの実現に向けた方針
- 賑わいと活気ある商業環境と良好な住環境のまちの実現に向けた方針
- 河川洪水等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

生産力のある優良農地の
保全・活用と地域コミュニティの維持

産業の活性化に向けた
土地利用を検討

道の駅「くるくる」との活用
災害時における
道の駅「くるくる」との活用

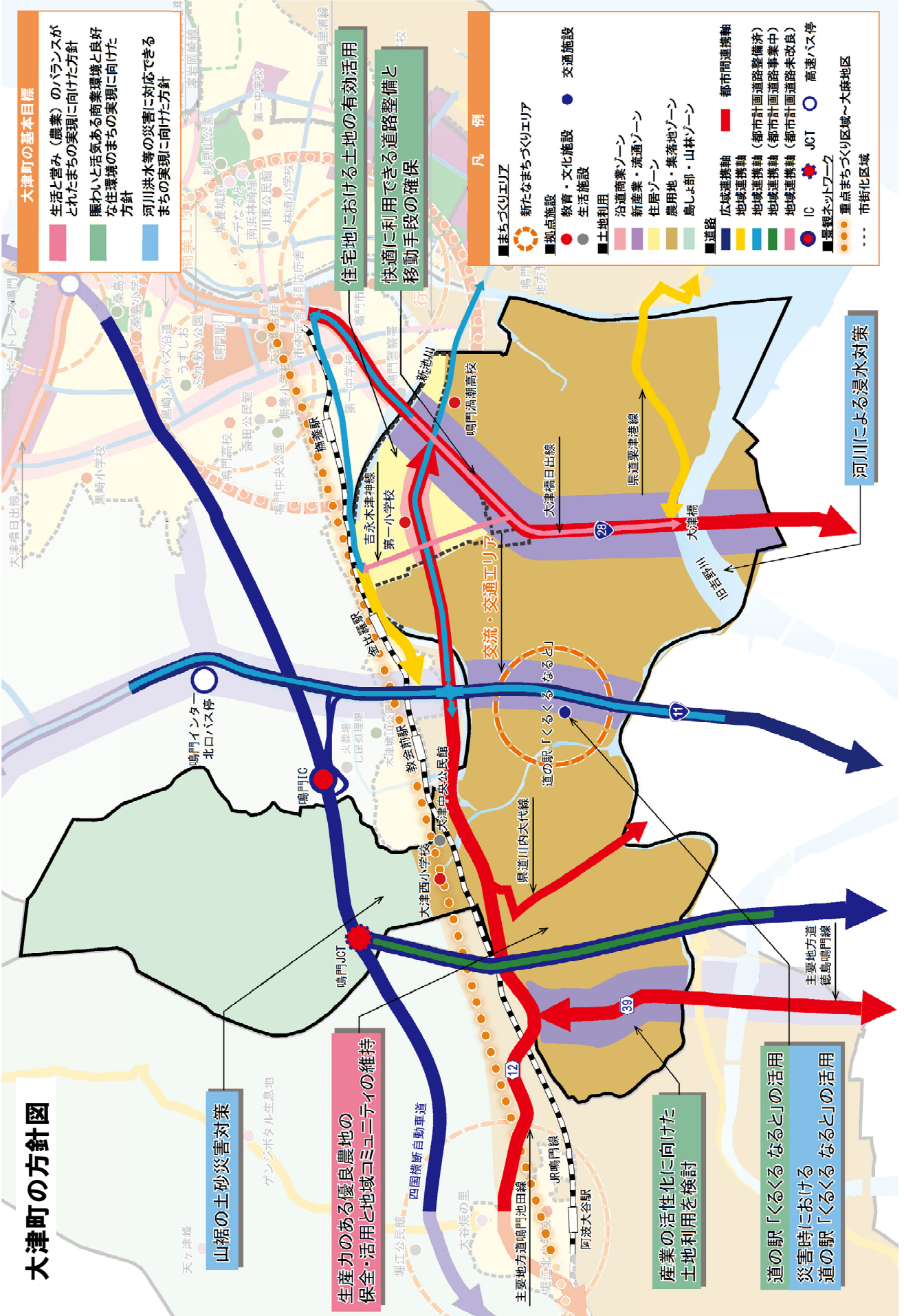
河川による浸水対策

住宅地における土地の有効活用

快適に利用できる道路整備と
移動手段の確保

凡 例

- まちづくりエリア
- 新たなまちづくりエリア
- 拠点施設
- 教育・文化施設
- 生活施設
- 交通施設
- 土地利用
- 治道商業ゾーン
- 新産業・流通ゾーン
- 住居ゾーン
- 農用地・集落地ゾーン
- 鳥しよ部・山林ゾーン
- 道路
- 広域連携軸
- 都市間連携軸
- 地域連携軸
- 地域連携軸（都市計画道路整備済）
- 地域連携軸（都市計画道路事業中）
- 地域連携軸（都市計画道路未改良）
- IC
- JCT
- 高速バス停
- 量販ネットパーク
- 重点まちづくり区域～大津地区
- 市街化区域



2-7. 大麻町堀江地区

■ 現状・課題

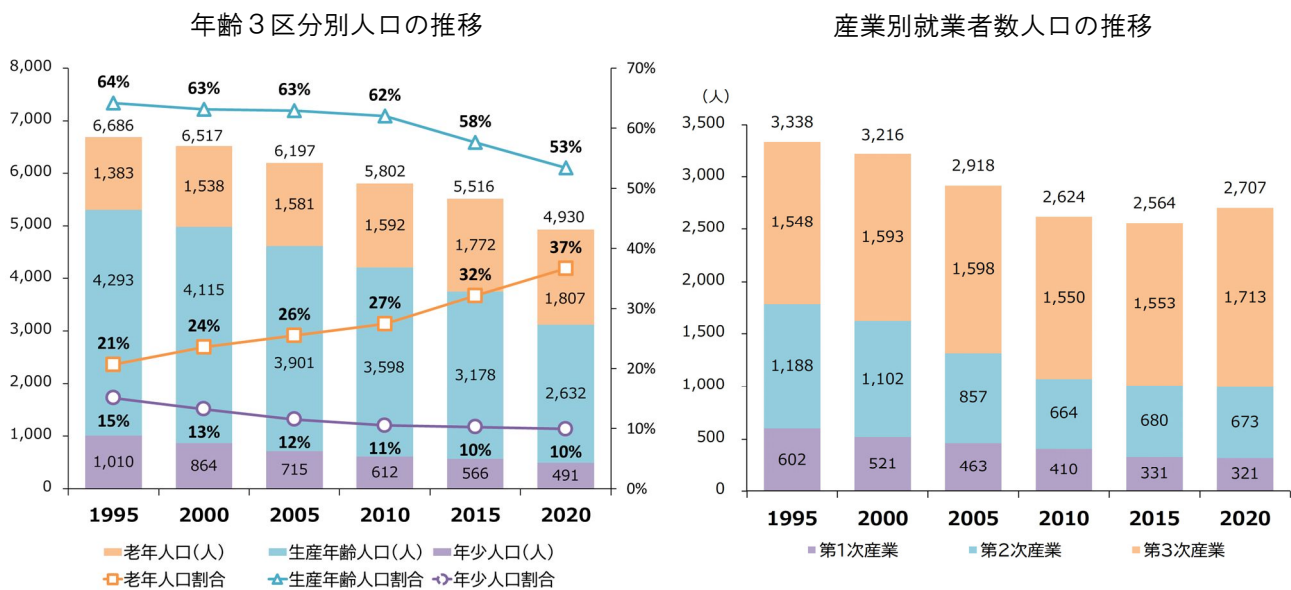
【人口】

○総人口は、1995年から2020年にかけて約1,700人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約16%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約5%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約600人減少しています。



【土地利用】

○阿波大谷駅周辺の既存集落は、住宅が密集し狭い道路が多いことから、住環境の改善が重要です。

○本地区は、北島町・藍住町に隣接しており、生活利便性が高い地域であるとともに優良な農地が広がっていることから、無秩序な開発を抑制し、集団的な農地の保全を図ることが重要です。

○山林部では、無秩序な乱開発の防止に努め、自然環境や景観を維持保全することが重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○JR 鳴門線、高德線、市中心部を結ぶ路線バスが運行されていますが、市中心部から離れていることから、既存の公共交通の維持と利便性向上に向けたあり方を検討することが重要です。

○鳴門市西部の観光地である本地区は、大谷焼やゲンジボタルなどの文化や自然などの地域資源を活かし、板東地区と一体となった観光地としての魅力の向上が重要です。

【都市防災】

- 土砂災害や河川洪水による浸水の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（土砂災害対策等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。
- 市民アンケートで「水害」による被害が心配されており、「豪雨時の雨水排水施設の整備」等が望まれています。

■ 基本目標

伝統産業や自然環境を活かした歴史・文化が息づくまち

大谷焼やゲンジボタルなど地域に根付いた特色のある資源を活用するとともに、大麻町板東地区と連携し、観光地としての魅力と回遊性の向上に努めます。

住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまち

コンパクトで良好な居住環境の形成に向けて、無秩序な開発が行われないよう適切な土地利用の誘導のもと、主要地方道徳島鳴門線沿道の企業誘致の適地としての検討を進め、住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な居住環境の形成に努めます。

土砂災害等の災害に対応できるまち

土砂災害や河川洪水による浸水の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（土砂災害防止、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（ハザードマップの活用、避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

伝統産業や自然環境を活かした歴史・文化が息づくまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針、自然環境・景観の保全年針

伝統工芸、大谷川のゲンジボタル、撫養街道等の地域資源の保全・活用

- 大谷焼の作陶体験や藍染め体験、蔵見学など、体験型観光が集まるエリアとして、PRの強化や周遊ルートの整備を促進します。
- 市の天然記念物であるゲンジボタルが生息する大谷川は、市民による保全活動が進められており、祭り等のイベントの開催による地域の振興を図る場として、生息環境の保全と活用を促進します。
- 撫養街道沿いの市街地は、周辺地域における生活の拠点として機能するよう、用途地域に基づく建築物の誘導を図りつつ、歴史的な街並みに配慮した景観づくりを板東地区と連携して推進します。

【関連するエリア】

- 文化・観光エリア

住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

住宅地における居住環境の改善と土地の有効活用

- 住宅地が密集し、狭あいな道路が多いことから、地域の実情に応じた空き家の除却、街路整備、ポケットパークの整備等を進め、居住環境の向上を図ります。また、比較的低密度で良好な住宅地としての土地の有効利用を図ります。
- 主要地方道鳴門池田線沿いは、住宅・商業・農地が混在しているため、市街地の無秩序な拡大を抑制しつつ、周辺環境に配慮した住宅地としての土地利用を推進します。
- 地域の南部は、松茂・北島・藍住町における市街化の動向を踏まえ、長期的な視点で土地利用を検討します。

工業地の維持と利便性向上

- 市場地区の工業地は、工業地としての機能性を維持するとともに、地域内道路の整備など利便性の向上を図ります。また、一部の地域で住宅系土地利用が混在していることから、土地利用動向を踏まえ、既存住宅の建て替え等に合わせて適切な土地利用を促します。

産業の活性化に向けた土地利用を検討

- 主要地方道徳島鳴門線沿道は、良好な交通アクセスなどの地域特性を活かした、新しい産業拠点として、計画的な土地利用を検討します。

生産力のある優良農地の保全・活用と地域コミュニティの維持

- 比較的規模の大きい農地にれんこんや水稻などが栽培されており、水が豊富で特徴的な農の景観の保全と活用に努めるとともに、生産性の向上に向けて、必要な基盤整備を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化に努めます。
- 農用地周辺の集落地は、環境との調和を図りながら、農業者の生活の場としての機能の維持に努め、コミュニティの維持・活性化を促進します。
- 堀江公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。
- 山林部は、自然環境や景観の維持保全を図るため、乱開発の防止に努めます。

■ 公共交通の整備方針

鳴門中心部や他市町への移動手段の確保

- 市中心部や松茂・北島・藍住町との公共交通による連携強化に向け、デマンド型交通の導入等を視野に入れながら、市民の日常生活における公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 工業ゾーン、新産業・流通ゾーン、住居ゾーン、農用地・集落地ゾーン、島しょ部・山林ゾーン
- 堀江公民館

土砂災害等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

災害時における堀江公民館の活用

○堀江公民館は、災害時は LP ガス発電機や可動式間仕切りの活用により、素早い電力供給や柔軟性のある避難所運営を図ります。

河川による浸水対策

○吉野川水系流域治水プロジェクト（大谷川・旧吉野川）に示される堤防整備等を促進します。

山裾の土砂災害対策

○県道大谷櫛木線沿道における土砂災害対策を促進します。

【関連する施設】

○堀江公民館

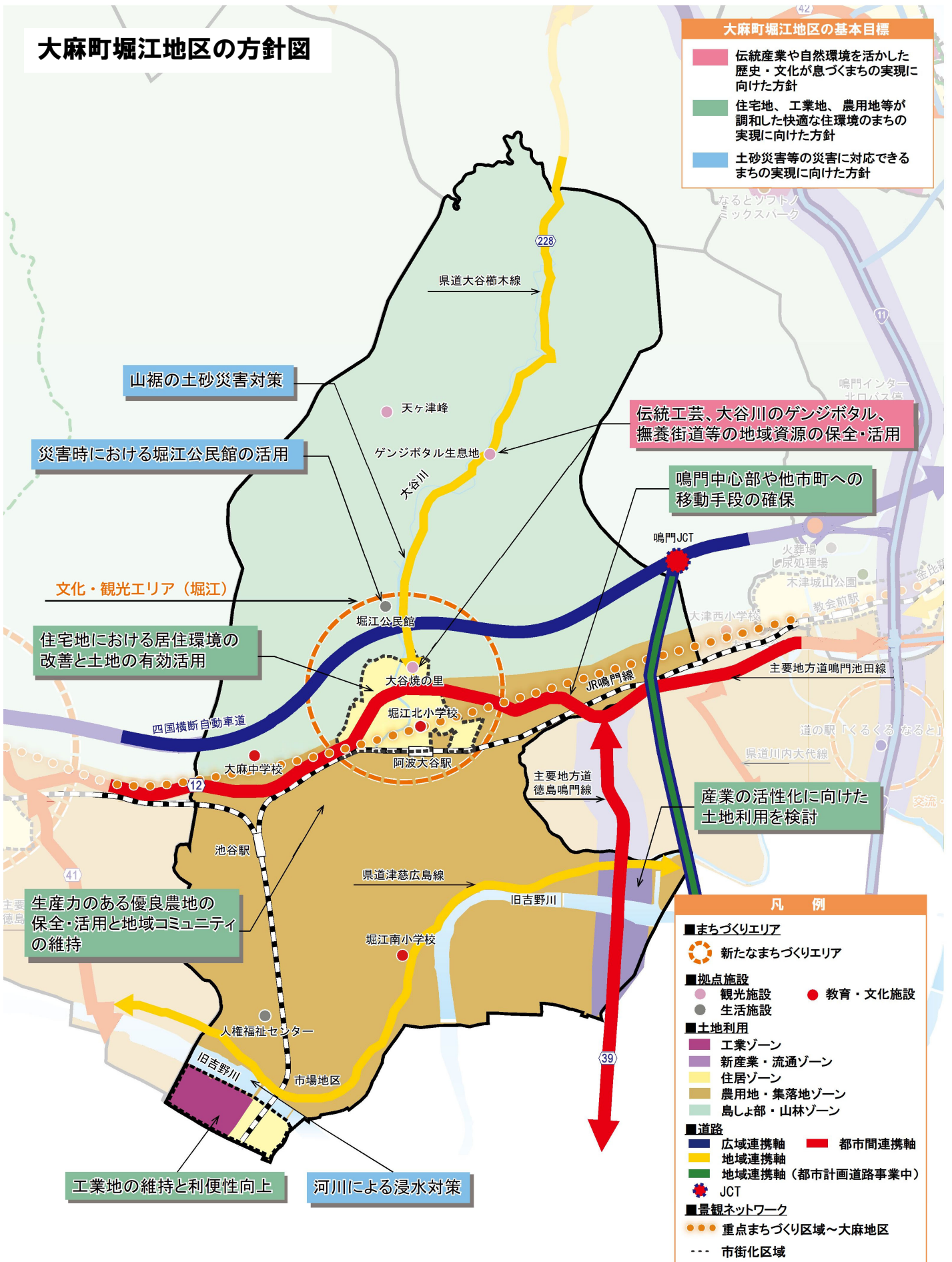
○大谷川・旧吉野川

○県道大谷櫛木線沿道

大麻町堀江地区の方針図

大麻町堀江地区の基本目標

- 伝統産業や自然環境を活かした歴史・文化が息づくまちの実現に向けた方針
- 住宅地、工業地、農用地等が調和した快適な住環境のまちの実現に向けた方針
- 土砂災害等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

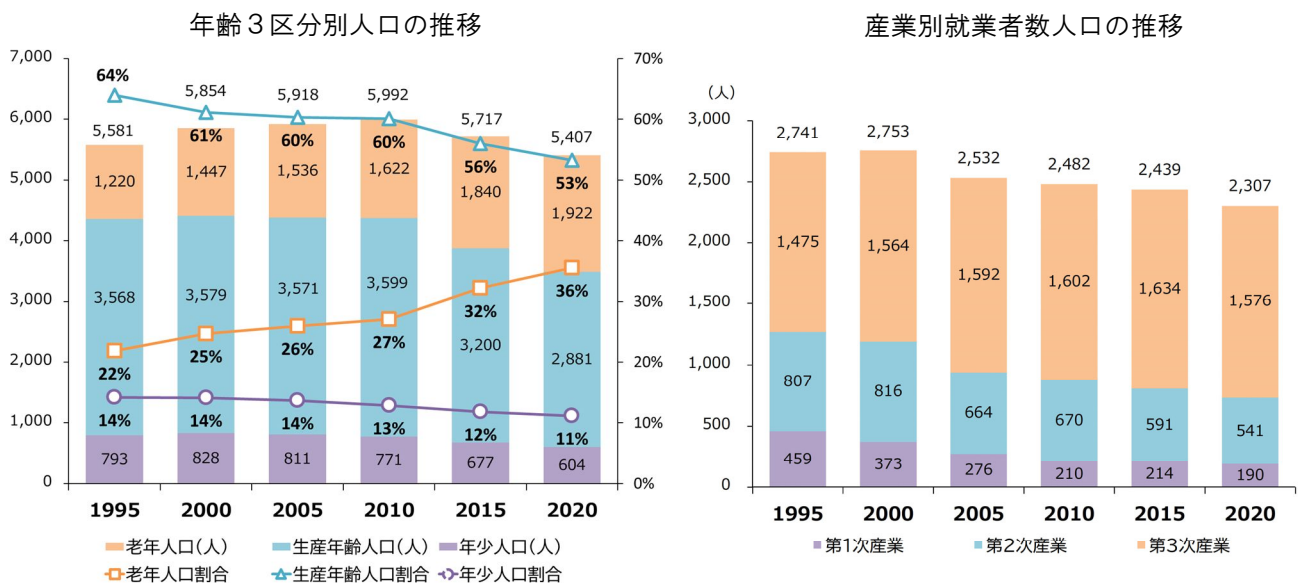


2-8. 大麻町板東地区

■ 現状・課題

【人口】

- 総人口は、1995年から2020年にかけて概ね横ばいです。
- 老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約14%増加しています。
- 年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約3%減少しています。
- 産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約400人減少しています。



資料：総務省 国勢調査

【土地利用】

- 板東駅周辺の既成集落は、住宅が密集し狭い道路が多いことから、住環境の改善が重要です。
- 主要地方道徳島北灘線沿道における道の駅「第九の里」を活用しながら、賑わい創出に向けた取組を進め、地域活性化を図ることが重要です。
- 北島町・藍住町に隣接しており、生活利便性が高い地域ですが、農地が多いことから無秩序な開発を抑制し、集団的な農地の保全を図ることが重要です。
- 本地区においては、施設入居型等の福祉施設が多く立地しています。
- 山林部では、無秩序な乱開発の防止に努め、自然環境や景観を維持保全することが重要です。
- サル・イノシシなどの野生生物による農作物への被害の抑制が重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

- ドイツ村公園は、ドイツ人捕虜との交流の歴史を伝えるドイツ館を中心に、関連施設の保存・活用を進めながら、質の向上と適切な維持管理に努めることが重要です。

- JR 高德線、市中心部を結ぶ路線バスが運行されていますが、市中心部から離れていることから、既存の公共交通の維持と利便性向上に向けたあり方を検討することが重要です。
- 鳴門市西部の観光地である本地区は、霊山寺・極楽寺、大麻比古神社などの歴史的文化的な地域資源を活かし、堀江地区と一体となった観光地としての魅力の向上が重要です。

【都市防災】

- 大麻町総合防災センター（仮称）の整備を進めており、フェーズフリーの考え方に基づいた施設の活用が重要です。
- 河川洪水による浸水の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（土砂災害対策等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。

■ 基本目標

豊かな自然環境や地域の歴史、伝統、文化を活かした魅力あるまち

霊山寺や極楽寺、ドイツ村公園、大麻山県立自然公園等の歴史・文化・自然資源を活用するとともに、大麻町堀江地区と連携し、観光地としての魅力と回遊性の向上に努めます。

住宅地、商業地、農用地等が調和した快適な住環境のまち

コンパクトで良好な居住環境の形成に向けて、無秩序な開発が行われないよう適切な土地利用の誘導を図るとともに、住宅地、商業地、農用地等が調和した快適な居住環境の形成に努めます。

鳴門市の西の防災拠点として機能するまち

大麻町総合防災センター（仮称）においてフェーズフリーの考え方に基づいた施設の活用を促進し、市民が安全で安心できる居住環境の形成に努めます。また、河川洪水による浸水の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（浸水被害防止、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（ハザードマップの活用、避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

豊かな自然環境や地域の歴史、伝統、文化を活かした魅力あるまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針、自然環境・景観の保全方針

道の駅「第九の里」周辺の整備・活用

- 道の駅「第九の里」や鳴門市ドイツ館、鳴門市賀川豊彦記念館などは、地域コミュニティを維持し、活性化を図る拠点として、既存施設の機能強化や活用に向けて必要となる整備を検討します。

霊山寺・極楽寺、撫養街道等の地域資源の保全・活用

- 四国八十八箇所の1、2番札所である霊山寺・極楽寺周辺は、歴史的な街並みや建築物を活かした景観づくり等を進め、歴史・文化を活かした観光振興を推進します。
- 撫養街道沿いの市街地は、周辺地域における生活の拠点として機能するよう、用途地域による建物の誘導を図りつつ、歴史的な街並みに配慮した景観づくりを堀江地区と連携して推進します。
- 大麻比古神社は、県内外の方が多く訪れる神社として維持・保全を図ります。

■ 公園・緑地の整備方針

ドイツ村公園や板東谷川等の維持管理

- ドイツ村公園は、周辺の自然環境との調和を図りつつ、国指定史跡板東俘虜収容所跡の保存や駐車場等の必要となる整備を推進します。
- 板東谷川や樋殿谷川は、護岸・河床整備を推進し、このうち、板東谷川は、地域との協働により花畑等の適正な維持管理に努めることにより、親水空間の利用を促進します。

【関連するエリアや施設】

- 文化・観光・防災エリア（道の駅「第九の里」、霊山寺・極楽寺、ドイツ村公園等）
- 大麻比古神社
- 都市緑地ゾーン
- 板東谷川、樋殿谷川

住宅地、商業地、農用地等が調和した快適な住環境のまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

住宅地における居住環境の改善と土地の有効活用

- 住宅地が密集し、狭あいな道路が多いことから、地域の実情に応じた空き家の除却、街路整備、ポケットパークの整備等を進め、居住環境の向上を図ります。また、比較的低密度で良好な住宅地としての土地の有効利用を図ります。
- 主要地方道鳴門池田線沿いは、住宅・商業・農地が混在しているため、市街地の無秩序な拡大を抑制しつつ、周辺環境に配慮した住宅地としての土地利用を推進します。
- 地域の南部は、藍住町における市街化の動向を踏まえ、長期的な視点で土地利用を検討します。

生産力のある優良農地の保全・活用と地域コミュニティの維持

- 比較的規模の大きい農地にれんこん・水稻・果樹などが栽培されており、水が豊富で特徴的な農の景観の保全と活用に努めるとともに、生産性の向上に向け、必要な基盤整備を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化を推進します。
- 農用地周辺の集落地は、環境との調和を図りながら、農業者の生活の場としての機能の維持によりコミュニティの維持・活性化を促進します。
- 板東公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。
- 山林部は、地域の一部が大麻山県立自然公園に属していることから、市民の貴重な緑として維持・保全を図り、乱開発の防止に努めます。
- 野生生物との共存を図りながら、農作物の被害軽減対策の実施に努めます。

■ 公共交通の整備方針

鳴門中心部や他市町への移動手段の確保

- 市中心部や藍住町との公共交通による連携強化に向け、デマンド型交通の導入等を視野に入れながら、市民の日常生活における公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 住居ゾーン、農用地・集落地ゾーン、島しょ部・山林ゾーン
- 板東公民館

鳴門市の西の防災拠点として機能するまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

大麻町総合防災センター(仮称)の整備

- 大麻町総合防災センター(仮称)は、日常時は分署及び連絡所、コミュニティスペースとなり、非常時は防災拠点となるなど「西の拠点」として整備します。

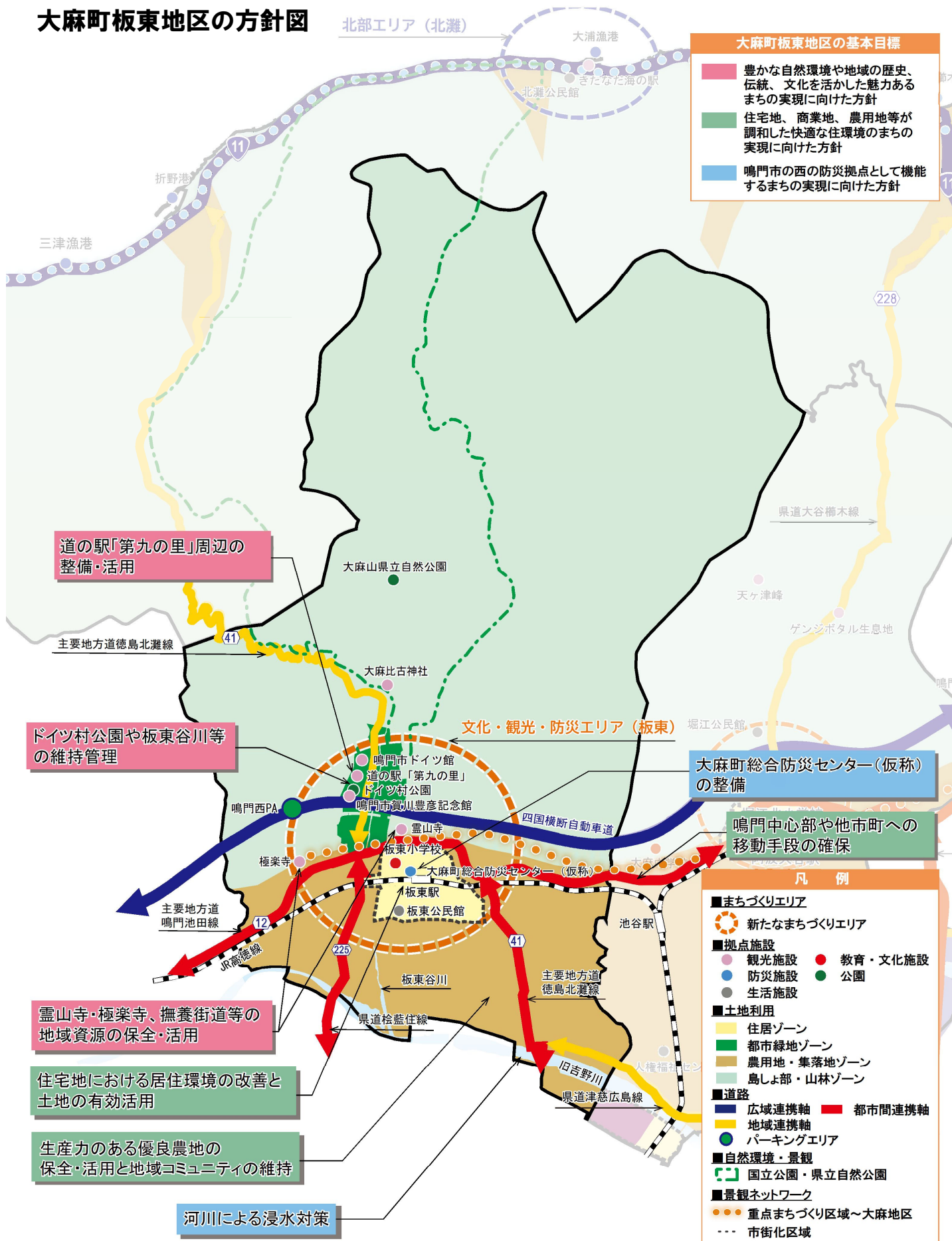
河川による浸水対策

- 板東谷川や樋殿谷川は浸水対策を促進します。
- 吉野川水系流域治水プロジェクト(旧吉野川)に示される堤防整備等を促進します。
- 自然再生を考慮した治水対策を検討します。

【関連するエリアや施設】

- 文化・観光・防災エリア(大麻町総合防災センター 仮称)
- 板東谷川・樋殿谷川・旧吉野川

大麻町板東地区の方針図



2-9. 北灘町

■ 現状・課題

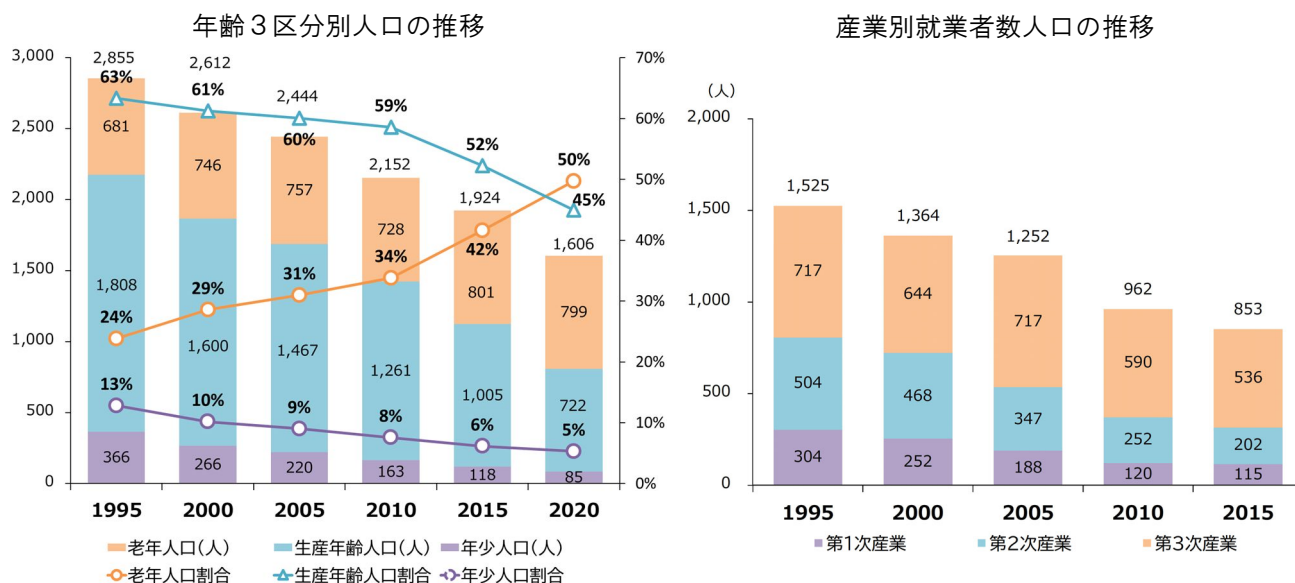
【人口】

○総人口は、1995年から2020年にかけて約1,200人減少しています。

○老年人口割合は、1995年から2020年にかけて約26%増加しています。

○年少人口割合は、1995年から2020年にかけて約8%減少しています。

○産業就業者数人口は、1995年から2020年にかけて約700人減少しています。



資料：総務省 国勢調査

【土地利用】

○地区内には商業地がないため、日常の買い物は市中心部と東かがわ市に依存しており、高齢化の進展に伴い移動困難者の増加が予想されることから、市中心部等への公共交通の確保が重要です。

○国道11号沿道におけるきたなだ海の駅を活用しながら、賑わい創出に向けた取組を進め、地域活性化を図ることが重要です。

○サル・イノシシなどの野生生物による農作物への被害の抑制が重要です。

○人口減少・少子高齢化の進展が著しいことに加え、集落間の距離が遠いため、地域コミュニティの維持が重要です。

【道路・公共交通、公園・緑地、自然環境・景観、生活環境】

○市中心部と東かがわ市を結ぶ路線バスが運行されていますが、市中心部から離れていることから、既存の公共交通の維持と利便性向上に向けたあり方を検討することが重要です。

【都市防災】

○土砂災害の危険性が高いことから、災害リスクに応じたハード対策（土砂災害対策や避難路の確保に向けた道路整備等）とソフト対策（避難体制の確立等）の両立が重要です。

■ 基本目標

自然と共生し海の景観を活かした魅力あるまち

多くの漁港が位置する海岸、瀬戸内海国立公園・大麻山県立自然公園等の自然資源やきたなだ海の駅などの観光施設を活用し、観光地としての魅力と回遊性の向上に努めます。

海辺の環境や地域コミュニティを守り、漁業を中心とした産業を振興するまち

漁業等を中心とした産業の振興に向けて、漁港などの関連施設の適切な維持・保全に努めるとともに、人口減少に伴う過疎化を抑制し、地域コミュニティ・担い手の維持・確保に努めます。

土砂災害等の災害に対応できるまち

土砂災害の危険性が高いため、市民ニーズを踏まえながら、ハード対策（土砂災害防止、避難所・避難経路の整備等）やソフト対策（ハザードマップの活用や避難体制等）による防災・減災対策に努めます。

■ 方針

自然と共生し海の景観を活かした魅力あるまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針、自然環境・景観の保全方針

きたなだ海の駅の整備・活用

○きたなだ海の駅は、地域コミュニティを維持し活性化を図る拠点として、既存施設の機能強化や活用に向け、必要となる整備を検討します。

海岸線や山間部の維持・保全

○地域の活性化に資するよう、美しい海岸線や自然環境、のどかな漁村・海辺の景観の維持・保全に努めます。

○山林部は、地域の一部が瀬戸内海国立公園・大麻山県立自然公園に属していることから、市民の貴重な緑として維持・保全を図り、乱開発の防止に努めます。また、大麻山における土地の活用を検討します。

○櫛木川・折野川は、ホタルなどの生息環境を保全し、緑豊かで潤いのある水辺空間の形成に努めます。

○ゴルフ場やリゾートホテルなどの観光レジャー施設が立地しており、地域の活性化に貢献する施設として維持します。

【関連するエリアや施設】

○北部エリア（きたなだ海の駅等）

○櫛木川・折野川

海辺の環境や地域コミュニティを守り、漁業を中心とした産業を振興するまちの実現に向けた方針

■ 土地利用の方針

漁業・農業の振興と地域コミュニティの維持

- 檳木漁港・栗田漁港・大浦漁港・折野港・三津漁港・碁の浦漁港は、必要となる施設整備を図ります。
- 漁業を中心とする集落地は、環境との調和を図りながら、漁業者の生活の場としての機能の維持によりコミュニティの維持・活性化を促進します。
- 北灘公民館は、生涯にわたる学習を通して、地域コミュニティの維持・活性化に向けた適切な維持管理と活用を促進します。
- 旧北灘西小学校は、民間事業者等と連携しながら、利活用に取り組み、地域活性化や雇用の創出を図ります。
- 農用地として生産性の向上を図るため、必要な基盤整備を推進し、関係団体と連携しながら維持管理体制の強化に努めます。
- 野生生物との共存を図りながら、農作物の被害軽減対策の実施に努めます。

■ 公共交通の整備方針

鳴門中心部や他市への移動手段の確保

- 市中心部や東かがわ市との公共交通による連携強化に向け、デマンド型交通の導入等を視野に入れながら、市民の日常生活における公共交通の維持・確保に向けた取組を推進します。

【関連するエリアや施設】

- 新産業・流通ゾーン、農用地・集落地ゾーン、島しょ部・山林ゾーン
- 檳木漁港・栗田漁港・大浦漁港・折野港・三津漁港・碁の浦漁港
- 北灘公民館 ○ 旧北灘西小学校

土砂災害等の災害に対応できるまちの実現に向けた方針

■ 都市防災の方針

大麻山の登山ルートを活かした避難の認知

- 大麻山については、日常時から登山ルートとして活用するとともに、災害時は避難ルートとしても活用を推進します。

高潮・津波による浸水対策

- 高潮・津波の浸水対策として、県等と連携しながら、海岸保全施設の適切な維持管理に努めます。

山裾の土砂災害対策

- 各集落における土砂災害対策を促進します。
- 土砂災害により、道路が閉塞することで孤立するおそれがあり、代替道路の確保が難しいことから、緊急時の輸送路などにおける船舶等の活用を検討します。

【関連する施設】

- 檳木漁港・栗田漁港・大浦漁港・折野港・三津漁港・碁の浦漁港

